

こわれ者の祭典

新潟公演

NIIGATA // NIIGATA-SHI SOUGOU FUKUSHI KAIKAN

坂口安吾生誕祭120 前夜祭

1906-2026

墮ちること
から始まる物語

坂口安吾
生誕祭

120

坂口安吾は『墮落論』に「墮ちきったところから始めよ」と書きました。薬物、孤独、精神の間。その経験は、こわれ者の祭典メンバーが抱えてきた体験と重なります。安吾生誕120年。私たちは“こわれ者の先輩”としての安吾を語り、安吾作品朗読と自作パフォーマンスで、墜ちた場所からの再生を描きます。



2026年3月1日[日] 開場 13:00 / 開演 13:30
16:00 終演予定

【会場】新潟市総合福祉会館 大集会室 新潟市中央区 八千代1-3-1
https://bit.ly/sogo_fukushi

【出演】月乃光司 [アルコール依存症・引きこもり自慢]

Kacco [摂食障害・引きこもり自慢]

キバヤシ・オズ [ノイローゼ自慢]

ゆみ [摂食障害・アルコール依存症自慢]

【ゲスト】齋藤正行 (新潟・市民映画館シネ・ウインド 代表)

※出演者が変更になる場合があります

【料金】参加費 1,000円 (当日券のみ・予約無し)

【主催・お問い合わせ】TEL 080-6618-8806 (実行委員会)

【こわれ者の祭典 公式サイト】<https://kowaremono.studio.site>



人間は弱いのである。 弱いからこそ生きていける。

【墮落論】

以前、病気の自分が嫌だった。精神科に通院したり、入院したりする自分が、ものすごく嫌だった。世の中で一番、嫌なのは自分で、だから自殺未遂をした。27歳の時が最後の入院で、それから30年以上が過ぎた。今は、病気の自分もそんなに悪いもんじゃないな、と思っている。病気から癒されることは、病気そのものが無くなってしまふことではなく、病気を自分の個性として受け入れ、そのままの自分で生きていこうと決意することだ、と気付いたからだ。「こわれ者の祭典」に、病気自慢のつわもの達が集結する。きっと、血沸き肉踊るような、自己肯定の分かち合いの場になるだろう。今、生きることに苦しんでいる人に、ぜひ来てもらいたい。 月乃光司

こわれ者の祭典メンバー

月乃光司

1965年生まれ。高校入学時から対人恐怖症・醜形恐怖症により不登校になる。ひきこもり生活、通算4年間を過ごす。24歳よりアルコール依存症になる。自傷、自殺未遂、アルコール依存症、処方薬乱用により精神科病棟に3回入院。27歳から酒を飲まない生活を続けて、少しずつ回復していく。心身障害者イベント「こわれ者の祭典」代表。会社員として働きながら、病気体験をもとにした自作詩の朗読活動を行う。第5回安吾賞新潟市特別賞。



Kacco

1967年生まれ。癒し系表現者。28歳の時に躁鬱病・摂食障害・パニック障害と診断され精神科病棟に2度の長期入院をする。その後、通院しながらも様々な生きづらさを感じ昼夜逆転、深夜になるとリストカットを繰り返す日々。ひきこもりの5年間を過ごす。こんな真つ暗闇の生活に光を見出したのはイラストを描くことだった。その後「作業療法士会全国大会POTA」などで自身の経験を話すようになる。講演会は教育や福祉の現場だけでなくとどまらず多方面で求められている。NHK Eテレの「ハートネットTV」をはじめメディアにも多く登場している。



キバヤシ・オズ

1974年生まれ。と田舎育ち。キモそうなヤツは大体友達。高校時代から強迫神経症やパニック障害や対人恐怖に悩まされる。専門書等で正しい知識を得て、音楽等の表現活動で発散し、なんとか社会人として成立して今に至る。去年はとある事件がきっかけでかなりの鬱状態になったが、音楽ユニットやイベント活動などを通じてかろうじて社会生活が維持できている。ネット上では全然バズらないボカロ音楽活動をしている。その他、ウェブ漫画家として、ダークな漫画「笑う女子高生」を連載中。座右の銘の1つは「病んだらとにかく表現しろ」である。



ゆみ

1984年生まれ。Colorful map副理事長。中学時代から生きづらさを感じ、摂食障害とアルコール依存でバランスを取りなんとか生きるように、24歳で精神科に医療保護入院。自助グループなど集団療法に癒される。死にかけてた時期を乗り越え、生きづらさを抱える人の支援として自分の経験を語り、自助グループ、イベント活動、講演などを行う。



ゲスト

齋藤正行

新潟・市民映画館シネ・ウインド代表。1949年新潟市笹口生まれ。新潟県立新潟高等学校卒業。大学進学で東京へ。新潟に戻ったのは82年。85年3月、名画座ライブの閉館を受けて、市民参加と市民出資による独自の新しい映画館をつくるため、「新潟・市民映画館建設準備会」を設立。12月「新潟・市民映画館シネ・ウインド」開館。安吾の会 世話人代表。



こわれ者の祭典 とは何か？

「病気」の体験発表&パフォーマンスイベント。「病気でどう苦しみ、そこからどう回復したか」をユーモアを交えたトークと、その病気に関するパフォーマンスで盛り上げる。現在まで、アルコール依存症、ノイローゼ、うつ、幻聴幻覚、過食症、引きこもり、脂性まひ、リストカット、自殺未遂、パニック障害、性同一性障害、などの体験者が出演した。平成14年5月に第1回「こわれ者の祭典」が新潟市総合福祉会館にて行われた。超満員170人を動員、会場を感動と笑いの渦に巻き込んだ。その後、「日本精神障害者リハビリテーション学会関連イベント」「精神障害者リハビリ施設 夕映えの里」「新潟看護大学」「菅沼宗東館寺」など8年間に50回以上の公演を行う。平成17年、名誉会長に作家の雨宮処凛さんを迎えて、新潟ロフトプラスワンでの公演にて、超満員180名を動員する。その後もNHK「福祉ネットワーク」で特集を組まれ、全国で公演中。



病気だヨ!全員集合